

秩父の1か月間

日本医科大学 附属病院 研修医 Y.T.

秩父での1か月間は今後の医師人生において忘れられない貴重な経験を積むことが出来た日々でした。

大学病院での研修といえば、指導医の後ろをついて回ることがほとんどで、外来診療や救急対応の際にファーストタッチをすることはあまり多くありません。ですが秩父病院では、ほとんどの初診や救急対応ではまずは研修医が患者さんから話を聞き、データを集め、それをもとに指導医と相談することで患者さんの治療方針が決定していきます。この日々の外来業務の積み重ねが、大学病院の研修では得ることが出来なかった貴重な経験となりました。患者さんという生身の人間を前にした時に、どのような態度で、どのような話し方をすれば信頼関係を築くことが出来るのか、当たり前のように大切にされていることでも、教科書に載っていないようなことをこの病院では学ぶことが出来ました。

花輪先生、山田先生や大野先生をはじめ、同期の榎本、小鹿野中央病院や秩父市立病院の研修医といった一生の財産となる出会いにも恵まれました。秩父病院でのびのびと研修することが出来たのは周りの方々の支えがあったからだと思っています。

まだまだ先のことになると思いますが、自分も将来、秩父病院のような地域に愛され、地元の方々に必要とされるような病院で働きたいと考えています。1か月と短い間でしたが本当にありがとうございました。